

氏名	Rungnapa Thepparp		
学位の種類	博士（社会福祉学）		
学位記番号	甲第 65 号		
学位記授与の日付	2017 年 3 月 17 日		
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当		
学位論文題目	Age-friendly Communities Development in Northern Thailand : Hua-Ngum' s Experience and Implementation in Other Sub-districts		
論文審査委員	審査委員長	北島 英治	
	審査委員	植村 英晴	（主指導教員）
	審査委員	大島 巖	（副指導教員）
	審査委員	斉藤 くるみ	
	審査委員	佐藤 久夫	

Abstract

The study of “age-friendly community development in northern Thailand: Hua- Ngum’s experience and implementation in other sub-districts,” makes a research assumption that the age-friendly community concept has the potential to be a model for sustainable rural development. It aims: 1) to conduct a needs assessment to analyze the Thai aging situation; 2) to construct an age-friendly community (AFC) development model from a good practices (GP) study; and 3) to generalize the AFC development model into guidelines to develop an AFC. The study mainly adopts qualitative research as the main methodology, however, both qualitative and quantitative methods are used to investigate the empirical evidence. The study is conducted in rural communities in northern Thailand by focusing on Hua-Ngum sub-district and four other selected sub-districts in the northern region.

The results of the good practice study (GP) of Hua-Ngum sub-district and four other selected sub-districts in northern Thailand can be summarized through three models, including: 1) the logic model of age-friendly community development, which aims to explain the assumed causal connections of input, output, and outcome of age-friendly community development; 2) the process model of age-friendly community development at the community level as a model to explain the stage of development of the age-friendly community. This depicts the stages of development of an age-friendly community that is divided into three stages, including: the beginning stage; the stage of establishing core values and community spirit; and the stage of focusing on age-friendliness; and 3) the process model to develop age-related activities, which aims to explain the process of developing age-related activities based on the community development cycle (community assessment, planning, implementation, and evaluation). Moreover, key factors contributing to the success of age-friendly communities are proposed, including: 1) good leadership - both formal and informal leaders; 2) strong partnerships; 3) concordance with religion and local culture; and 4) participation of the elderly. According to the models, importance is paid to the elderly as the “center” of community development, with the realization and reflection that the elderly have potential and they are also powerful resources that can drive community development. Furthermore, the lessons learned based on GP study indicate the importance of the power of local communities to tackle their own aged societies with regards to the social capital and social participation of all community members.

【審査結果の要旨】

1 審査委員の構成と審査の経過

博士論文審査は、日本社会事業大学大学院学則、同学位規定及び同博士後期課程修了細則に基づき、第3次予備審査及び最終審査から成り立っている。審査委員は、社会福祉学研究科委員会にて選任された大学院担当の専任教員5名が担当した。5名の氏名と専門分野は以下のとおりである。

審査委員長	北島 英治	ソーシャルワーク
審査委員	植村 英晴	障害者福祉、障害者雇用施策の国際比較研究
審査委員	大島 巖	精神保健福祉 福祉プログラム評価
審査委員	斉藤 くるみ	手話言語学、脳神経言語学、障害学、コミュニケーション論
審査委員	佐藤 久夫	障害者福祉

2016年10月31日までに提出された第3次予備審査博士論文について、審査委員がそれぞれ精読し、11月24日の公開口述試験を行った。それらの審査を踏まえた各審査委員の指摘事項を審査委員長がとりまとめ、1月20日までの修正を認め、審査委員会は指摘事項に対応した論文の提出を受けて審査を行い、5名の審査委員全員が第3次予備審査の評価を合格とし、審査委員会においての合格が了承された。次いで、2月6日までに最終審査及び最終試験の申請がなされ、審査委員会は、提出された本論文は博士(社会福祉学)の学位を授与するにふさわしいとの結論に達し、審査委員5名連名による「博士論文最終審査及び最終試験結果報告書」が作成され、2017年2月16日の社会福祉学研究科委員会に審査結果を提案し了承を得た。本学学長は、これらの手続きを経て、2017年3月17日に「博士(社会福祉学)」の学位を与えることとした。

2 博士論文の評価

本論文の研究目的の明確さと重要性に関しては、WHOのAge-friendly Community(AFC)の枠組みを用い、タイの農村地域のモデル構築をするという研究目的は明確である。都市部の高齢化問題に関する研究と比較すると、地域の高齢化問題、特に、限られた予算と人員による地域行政のもとで、地域に密着したコミュニティ発展に関する研究は少なく、その研究の重要性は高い。研究方法、分析方法に関しては、タイ政府や自治体の高齢者に関する情報を精査し、タイ北部自治体(SAO)で行われている“Good Practice”を調査対象とし、実態調査を実施し、“重要なインフォーマント”、タイの高齢者施策に携わるリーダー達へのインタビューを実施した。多重的な質的、量的研究を行っている。倫理的配慮に関しては、本学研究倫理委員会の承認を得て実施し、データ管理も適切である。ただし、関係者へのインタビューによるデータの収集と分析において、データの信頼性の確保の面において、弱点があることが指摘された。

研究結果のオリジナリティと社会的意義に関しては、WHOのAFCは、主に西欧圏における都市部の高齢化に対する取り組みであるが、本研究は、アジアにおける予算とマンパワーの限られた地域自治体のもとでの高齢化に対応する「高齢者に優しいコミュニティ・モデルの開発」に

特化し、オリジナリティがある。タイにおける「地域における高齢化に対応する AFC・モデル」研究は、世界諸国の地域高齢化問題のモデル構築の研究方法を提示するものとなり、その社会的意義がある。以上から、博士論文として十分な水準に達していると評価する。

3 最終試験の結果

WHO の Age-friendly Community(AFC)の枠組みを用い、タイの農村地域のモデル構築とする研究目的において、地域に密着したコミュニティ発展に関する本研究は、研究課題を科学的に追求する自立した研究能力を示している。また、研究方法、分析方法として、タイ政府や自治体の高齢者に関する情報を精査し、タイ北部自治体(SAO)で行われている” Good Practice”を調査対象として、実態調査を実施し、”重要なインフォートメント”、タイの高齢者施策に携わるリーダ達へのインタビューを実施し、多重の質的、量的研究は、社会福祉実践の向上や発展に資することのできる高度の実践的研究能力を示している。

タイにおける「地域における高齢化に対応する AFC・モデル」研究は、”世界の高齢化問題”といったグローバルな社会福祉学の豊かな学識の上に実現されている。以上のことから、博士(社会福祉学)にふさわしいと評価する。